



社教NFTかわら版

中部教育事務所社会教育だより (NFT=network・footwork・teamwork)

中部教育事務所第59号
令和7年3月17日
主任社会教育主事
山崎一也・竹内実佐恵

「今こそ、高知家の社会教育」～ともに、これからを～」

2月15日(土)に高知市春野文化ホールで、第10回高知県社会教育実践交流会が開催されました。社会教育委員、公民館職員、婦人会、青年団、市町村の担当者、学校関係者、老人クラブなど、さまざまなジャンルの方が集まり、日頃の活動について交流し合いました。

基調報告 「高知県の社会教育のいま」

齊藤 雅洋 准教授 (高知大学地域協働学部)

お話の中で、令和6年度、高知県内における、コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部の設置が100%となったことに触れ、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動についての説明がありました。



○コミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)

- ・地域とともにある学校づくり
- ・学校運営への保護者・地域住民の参加



一体的な推進

○地域学校協働活動

- ・子どもも大人も学び合い育ち合う教育の推進
- ・教育活動への地域住民等の参加

(学校(支援)ボランティアの促進・活性化)

引用:スライド資料

高知市立潮江中学校の生徒会活動では、「地域とつながる生徒会」として、資源ごみ分別のボランティアに取り組んでいる。地域の方からの感謝や声かけといったコミュニケーションによって、生徒たちに変容が生まれ、地域への愛着を深めることにつながっていった、という事例も紹介されました。齊藤准教授のお話から、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進によって、「学校を核とした地域づくり(地域活性化・地域を担う人材の育成)」が可能になることが分かりました。学校はもとより、保護者や地域の方々に、このコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の仕組みを正しく理解していただきたいと感じました。

さらに、社会教育の価値(よさ)を言葉にして、いろいろな人と話をすることで、社会教育の価値(よさ)を共通理解していくことが大切であるというお話もあり、このような場が学校や地域で広がっていくといいなと感じました。

令和7年度社会教育主事講習

〈講習期間〉

- ①令和7年7月18日(金)～22日(火) 生涯学習概論
 - ②令和7年8月16日(土)～29日(金) 社会教育経営論・生涯学習支援論
- ①、②ともに、社会教育演習があります。
〈会場〉高知大学朝倉キャンパス他

今年度、高知大学で開催されます。いっしょに学びませんか？



パネルディスカッション

4名のパネラーから、人のつながりを広げる工夫やその人その人に合った関わり方、交流から対話を生み出す等、これからの社会教育を考える上でのヒントをたくさんいただきました。



「青年団活動で感じている
社会教育×〇〇の大切さ」
～トモニ・コレカラヲ～

- 大久保 耀子氏・森岡 千晴氏
- ・「会話」ではなく、「対話」をする。
 - ・活動を通して、その人を知る。
 - ・出会い、移住・定住、子どもの居場所等、社会問題の解決に社会教育が求められている。

「社会教育×地域づくり」
一室戸市佐喜浜町を事例にー
徳増 千里氏

- ・今までデメリットだとされてきたものを希望や強みと捉え直す。
- ・子どもたちに町の課題を見出させ、どう解決していくかを考えさせることが大切である。
- ・「楽しい」を駆動力にする。

「食育・防育クラブなんこく
～リンクする社会教育～」
門脇 由紀子氏

- ・防災研修と料理教室をドッキング。
- ・日常と災害時に役立つ知識とスキルを楽しく学ぶ。
- ・防災の知識を学びながら、家族や地域のつながりを深める。

中部教育事務所管内の社会教育活動を発信します

この「社教NFTかわら版」はみなさんの地域や社会教育活動を応援する情報誌です。社会教育に関わる活動情報がありましたらぜひお知らせください。

連絡先 高知県教育委員会事務局 中部教育事務所

TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167 E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp

